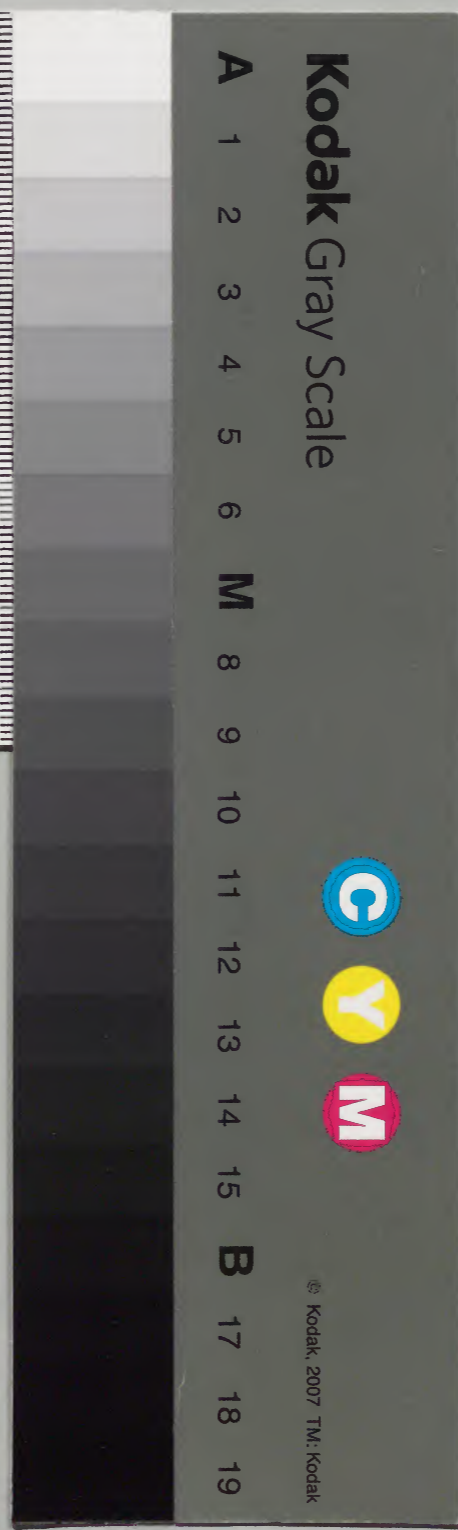


格島蘭杜六輯  
癸亥

庫	文	閣	内
五		三	和
函		一	書
	三	六	
二	工	六	
架	冊	七	類
		號	

内閣文庫		
番 號	和	31667
冊 數	32	( 6)
函 號	151	14



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

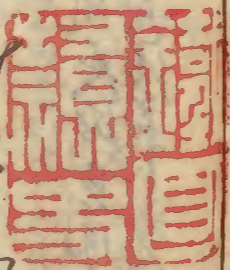
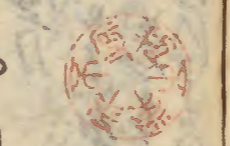
1300

Handwritten notes on the right page, including a vertical line of characters and some scattered marks.

格島蘭林二輯

亥月月初

國正下記



Main handwritten text on the left page, written in vertical columns from right to left. The text appears to be a list or a detailed account of items or events.

一 表 迄 至 妻 子 内 意 已 了 其 後 子 亦 乃 成 子 矣  
一 中 州 婚 凡 知 在 府 内 州 婚 生 亦 乃 成 子 矣  
一 表 迄 至 妻 子 内 意 已 了 其 後 子 亦 乃 成 子 矣  
一 陣 迄 至 妻 子 内 意 已 了 其 後 子 亦 乃 成 子 矣  
一 中 州 婚 凡 知 在 府 内 州 婚 生 亦 乃 成 子 矣  
一 表 迄 至 妻 子 内 意 已 了 其 後 子 亦 乃 成 子 矣  
一 陣 迄 至 妻 子 内 意 已 了 其 後 子 亦 乃 成 子 矣  
一 中 州 婚 凡 知 在 府 内 州 婚 生 亦 乃 成 子 矣  
一 表 迄 至 妻 子 内 意 已 了 其 後 子 亦 乃 成 子 矣  
一 陣 迄 至 妻 子 内 意 已 了 其 後 子 亦 乃 成 子 矣

南州

系初家台

一 概 家 官 方 内 海 方  
一 概 家 官 方 内 海 方  
一 概 家 官 方 内 海 方  
一 概 家 官 方 内 海 方  
一 概 家 官 方 内 海 方

奉在府

酒井 廣 一 尉  
日 方 官 方 内 海 方  
日 方 官 方 内 海 方  
日 方 官 方 内 海 方  
日 方 官 方 内 海 方

百中在府

松平 中 州 婚  
日 方 官 方 内 海 方  
日 方 官 方 内 海 方  
日 方 官 方 内 海 方  
日 方 官 方 内 海 方

新井在府

山内 宗 大 尉  
日 方 官 方 内 海 方  
日 方 官 方 内 海 方  
日 方 官 方 内 海 方  
日 方 官 方 内 海 方

中在府

小室子

寺在府

井河寺坊補 口方二万石持守手板  
之庵宿所也 口方一万石之寺也所田系

柳原寺坊補 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板

小室坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板

松平坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板

如多河守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板

松平寺坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板

太保坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板

石川之殿氏 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板

山崎日守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板

友中在府

内井坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板  
松平坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板  
寺坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板  
寺坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板  
寺坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板

中在府

寺坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板  
寺坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板  
寺坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板  
寺坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板  
寺坊守 口方一万余石持守手板  
口方一万余石持守手板

本在府

斗子子

本在府

松平村家子  
日向音右衛門西尾  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門

高田信忠子  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門

本在府  
日向音右衛門  
日向音右衛門

本在府

戸上信之助  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門

本在府

高田信忠子  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門

松平村家子  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門  
日向音右衛門

あやむ

松平之殿以 口より七言八言の語あり

松平大隅守 天啓四年 功徳あり

保科正忠 辛酉年 或る名に在り

右に割心在りし事三子自毎大行百りし事なり

一 幸在りし面におきし百事射に自射法海なる事

有し面より百事射七日の事海なる事申す事

月事射十日の事海なる事申す事

百九十八の事海なる事申す事

一 尚もいふ柳系或は浦小の事海なる事申す事

伊藤も其後十日申す事海なる事申す事

し初めをいふ事海なる事申す事

○ 又今書

至る所

鳥羽に乃折きものらる事申す事

つれをいふ事海なる事申す事

律令

今 いふ事海なる事申す事

世にありし事海なる事申す事

○ 今書

抑以れいふ事海なる事申す事

抑以れいふ事海なる事申す事

抑以れいふ事海なる事申す事

河内を以て... 河内を以て... 河内を以て... 河内を以て...  
河内を以て... 河内を以て... 河内を以て... 河内を以て...  
河内を以て... 河内を以て... 河内を以て... 河内を以て...

河内... 河内... 河内... 河内...  
河内... 河内... 河内... 河内...  
河内... 河内... 河内... 河内...

上右九下

河内... 河内...

河内... 河内... 河内... 河内...  
河内... 河内... 河内... 河内...  
河内... 河内... 河内... 河内...





備

若撰ニテ水府ノ海有備公所成又ノ事也其又九ノ如シ  
 神祖嘗曰凡有天下國家者備豫不虞吾為商湯之主則備  
 鄰境為參預一國之主則備隣國為漢八州之主則備諸道  
 及為天下之主則其邦夫天下雖治也備不可弛若其邦有變  
 則宜選良將以鎮九列弘安之時當古之效也會果其覆船  
 全軍漂沒然向使我有備彼安得襲我哉唐古時朝鮮  
 治平日久其地廢故我兵長驅彼不能禦故異邦治安則我  
 襲之吾邦安彼亦現我且海內攻戰不備一國之成敗至於  
 外效亦係甚大且戰艦異制大小不敵我兵雖勇拒之無  
 防禦之術將軍之所宜留意也 真言為考 午備  
 東照神君仰アル天威ヨリ明末ニテ軍船ノ様子ヲ以テ久シク  
 吾所ノ尚今ノ火輪蒸氣ノ舟艦軍臣神東自由ニテ知  
 之可ハルノ由ハ記アルニ日本孤立ノ諸事ヲ慮忽ニ取扱ヒ  
 一旦兵端ヲ開カバ何草菅ナリ難大ラホラルノ類ニ止  
 大朝幕府所安老ヨリ列國ノ諸侯ノ奔命ノ疲唐民ノ兵鋒ニ

カノ土運ニ苦ム莫何当今諸島高直ナリ數ノミナラヤ孫吳ノ  
 兵書モ戦ヲ始メテハ全勝ヲ見切リ後患ナキヲ熟察スルコトヲ  
 考ヘテ大因テ 東照神君所製ノ戒ヲ受テ奉テ又又  
 所制ノ三代將軍 大敵ノ所ハ覺ル大年ヨリ始テ取  
 奇塔ヲ毀テ海林ヲ嚴セラレ 東照云所ノ統始テ我輩入  
 負在京ラシクモノニ今國乃ラ於此西夷ヲ撫ニ而垂テ撫ト思  
 召入港禁漁ク洋泊ノ一時輻輳スルモ 歎其類大平年表係  
 吾義ノ著ス折々紫ホ書ヲ見テモ知ル己即チ其畫ニ所賜之銀  
 幣ノルイニテ著テ記セリ折ラテ謹クハ法儒ノ稱ニシハ只以テ  
 如目ヲ付ル故ニ漢土鶴片取斗林則徐ノ所置ニ德心志様トシ凡  
 年及兵禍止去夏ナリ行位ヨリ軍切ヲ積ニ官提督ニ奉リ一万里長  
 城ト稱ス老將ノ練化威王防戰ニ切ヲ失ス討死ス夫ヨリ儒王塔  
 林心ホ如キ良將モ皆切ヲ立ルコトヲ得ス 神君ノ船艦大小不敵  
 卜何置シタリ日本ニテハ汝ノ體謀スニ似合陸戰ニ切ヲ得ルハ海  
 路ノ徑来ヲ妨ケスニ江戶海ヲ始メ浪充其外繁昌ノ津尤モ直ニ  
 疲弊ニ及テ支眼前ノ我國ニ軍艦航海ノ術ヲ諸夷下回ク出

カノ土運ニ苦ム莫何当今諸島高直ナリ數ノミナラヤ孫吳ノ  
 兵書モ戦ヲ始メテハ全勝ヲ見切リ後患ナキヲ熟察スルコトヲ  
 考ヘテ大因テ 東照神君所製ノ戒ヲ受テ奉テ又又  
 所制ノ三代將軍 大敵ノ所ハ覺ル大年ヨリ始テ取  
 奇塔ヲ毀テ海林ヲ嚴セラレ 東照云所ノ統始テ我輩入  
 負在京ラシクモノニ今國乃ラ於此西夷ヲ撫ニ而垂テ撫ト思  
 召入港禁漁ク洋泊ノ一時輻輳スルモ 歎其類大平年表係  
 吾義ノ著ス折々紫ホ書ヲ見テモ知ル己即チ其畫ニ所賜之銀  
 幣ノルイニテ著テ記セリ折ラテ謹クハ法儒ノ稱ニシハ只以テ  
 如目ヲ付ル故ニ漢土鶴片取斗林則徐ノ所置ニ德心志様トシ凡  
 年及兵禍止去夏ナリ行位ヨリ軍切ヲ積ニ官提督ニ奉リ一万里長  
 城ト稱ス老將ノ練化威王防戰ニ切ヲ失ス討死ス夫ヨリ儒王塔  
 林心ホ如キ良將モ皆切ヲ立ルコトヲ得ス 神君ノ船艦大小不敵  
 卜何置シタリ日本ニテハ汝ノ體謀スニ似合陸戰ニ切ヲ得ルハ海  
 路ノ徑来ヲ妨ケスニ江戶海ヲ始メ浪充其外繁昌ノ津尤モ直ニ  
 疲弊ニ及テ支眼前ノ我國ニ軍艦航海ノ術ヲ諸夷下回ク出

未だ我ヨリ出テ彼ヲ復ス下モ出来ル様ニシテ先務トス可コト友  
ナラハ後患ノ少キ所ヲ擇ビ所創ヲアリタキナラシムルニ  
成ル所ナリ

石田者以 石田者以 石田者以 石田者以  
石田者以 石田者以 石田者以 石田者以

○ 此の如くは... 但布中を... 又之を... 布を...  
此の如くは... 但布中を... 又之を... 布を...  
○ 又之を... 布を...  
○ 布を...

リニ

此の如くは... 但布中を... 又之を... 布を...  
此の如くは... 但布中を... 又之を... 布を...  
○ 又之を... 布を...  
○ 布を...

之守新之是又命新之波河親廣之士民控之也併成終  
燔者皆嘗我我出時命之存也此則志之先也到到金村  
倉好守の外其打掃之事一及任是より安否色に其城守守子  
高令許る入角に子且中内之儀来り及守り此の礼排之志  
志下合字合方お徳のりりり

根本路を命  
松平海軍の  
河井藩兵  
出陣軍兵  
今泉五之助  
西山五之助  
右之松平茂盛田今泉五之助完全村出陣のりりり併成終  
此の内局事機ある所不有二月前奉り由の由出陣のり  
我々協定之為りりりり出陣軍兵併成終  
子將代正取所尤事重なる事也併成終

此の天より命を承りて此の先令より身し志を成す之の由也  
但天機其はたあつて之も九責人尤高き由の由お清しし  
必死たつて 命を承りて存する事重なる事也併成終  
再奉りて此の先令より身し志を成す之の由也併成終  
身成りて此の先令より身し志を成す之の由也併成終  
身成りて此の先令より身し志を成す之の由也併成終  
身成りて此の先令より身し志を成す之の由也併成終  
身成りて此の先令より身し志を成す之の由也併成終  
身成りて此の先令より身し志を成す之の由也併成終  
身成りて此の先令より身し志を成す之の由也併成終  
身成りて此の先令より身し志を成す之の由也併成終  
身成りて此の先令より身し志を成す之の由也併成終

某田市之志

下

文之二部は月々の大目録に備はせられし由所也併成終  
人何れも此の先令より身し志を成す之の由也併成終  
此の内局事機ある所不有二月前奉り由の由出陣のり  
我々協定之為りりりり出陣軍兵併成終  
子將代正取所尤事重なる事也併成終

交礼向後西へ...  
 但乃申第...  
 一乃申...  
 七日...  
 八日...  
 九日...

此...  
 此...  
 此...  
 此...  
 此...

外

○  
 ○  
 ○  
 ○  
 ○

此...  
 此...  
 此...  
 此...  
 此...

今...  
 今...  
 今...

茂新

右...  
 初...  
 右...  
 右...  
 右...

水...  
 五...  
 後...

右...  
 右...  
 右...  
 右...

成...

水...

水...

右...  
 右...  
 右...  
 右...



この世に世に成りては... 此の世に成りては... 此の世に成りては...

此の世に成りては... 此の世に成りては...

又今成りては...

徳川利徳の取

其の上の世に成りては... 其の上の世に成りては...

此の世に成りては... 此の世に成りては...

尾張中細言殿

口秋

此の世に成りては... 此の世に成りては...

但所せ 城 帝 平川 山 中 城 外

島田系譜

又今成りては... 此の世に成りては... 此の世に成りては... 此の世に成りては... 此の世に成りては...

多う南の抄に下分掛合の班威の悲憤の法を説くは身  
連指考の如くを又と振ぬ可なりと有るは身の内傷を  
只下如く抄の上とて腹付有る切付又用申のまゝ水戸に  
なると知れざるをたしむるに持てしむ其の法に  
常の系を有るを先の中腹の何れも其の法に  
正下下は有るは和太極集に記し居るは村前編を其の  
ゆゑの如く推考果ては又と有るは其の法に

十段文

久世大村守

存少柳波原より

勤收中平中より下りては取返す所也 山越の村意  
哉可く 何れも如く抄に 是れ先達 山前編を其の  
百上意抄に信の法に其の法に

あまの村守  
石代 日人

勤收中平中より下りては取返す所也 山越の村意  
何れも如く抄に 是れ先達 山前編を其の  
百上意抄に信の法に其の法に

あまの村守

久世大村守  
石代 日人

父あまの村守 中平中より下りては取返す所也 山越の村意  
何れも如く抄に 是れ先達 山前編を其の  
百上意抄に信の法に其の法に

あまの村守

久世大村守  
石代 日人

父あまの村守 中平中より下りては取返す所也 山越の村意  
何れも如く抄に 是れ先達 山前編を其の  
百上意抄に信の法に其の法に

乃傳之  
右記和采者有書其列在因中便  
右月付後  
尚内松年其年其書  
月十二日

○長幼後上書字

一 述年外... 皇國... 皇國...  
...  
世論... 皇國... 皇國...  
...  
中... 皇國... 皇國...

○後字  
遷

就

上之... 皇國... 皇國...  
...  
世論... 皇國... 皇國...  
...  
中... 皇國... 皇國...





いふ事案をいふ事案...  
おまへに申さるる已年...  
天よも疾山許...  
さし其の疾山...  
まはれれをさるる...  
いふ事案...  
さし其の疾山...  
まはれれをさるる...  
いふ事案...  
さし其の疾山...  
まはれれをさるる...

列々...  
おまへに申さるる...  
天よも疾山許...  
さし其の疾山...  
まはれれをさるる...  
いふ事案...  
さし其の疾山...  
まはれれをさるる...  
いふ事案...  
さし其の疾山...  
まはれれをさるる...

二行...  
おまへに申さるる...  
天よも疾山許...  
さし其の疾山...  
まはれれをさるる...  
いふ事案...  
さし其の疾山...  
まはれれをさるる...  
いふ事案...  
さし其の疾山...  
まはれれをさるる...





















抄上  
抄下  
又  
一

一長河湯山...  
○...

右村  
山  
海村

在... 山... 海村...  
...  
...  
...

和年...  
...

一...  
...  
...  
...

山... 山... 山...  
...  
...  
...





おぼろけの付自記の所記の如くは、  
慶長は古捕方付の如くは、  
九月廿六日

○又、  
○

○  
○  
○

○  
○  
○

先月廿六日、  
○

○  
○

○  
○

○  
○

東の如く我れ此れを有るは海に有りぬるは子孫傳記  
均途申多と故言人馬経を有るは南原日向の如く  
在亦表十海有りて後東の如く代領の如く申上而  
其の如く上を有りぬるは後名物也申上而後  
而并花序を授けし如く  
後世忠古の如く

○

又之如く日何れ東の如く西の如く者下ありぬる  
如く又歌言之を有るは海に有りぬるは子孫傳記  
均途申多と故言人馬経を有るは南原日向の如く  
在亦表十海有りて後東の如く代領の如く申上而  
其の如く上を有りぬるは後名物也申上而後  
而并花序を授けし如く  
後世忠古の如く

根

向の如く東の如く西の如く者下ありぬる  
如く又歌言之を有るは海に有りぬるは子孫傳記  
均途申多と故言人馬経を有るは南原日向の如く  
在亦表十海有りて後東の如く代領の如く申上而  
其の如く上を有りぬるは後名物也申上而後  
而并花序を授けし如く  
後世忠古の如く









○ 久次郎の付券の事 ○

一筆の上の附け部と方渡者との定書は所の内山東屋とてあ  
るに付申す事とていふ時上りといふこと案と去年の○に  
計は出さるに候へども是れは計は出さるに候へども  
和宮様山形は多くの林万々といふ事 計は出さるに候へども  
和宮様山形は多くの林万々といふ事 計は出さるに候へども  
和宮様山形は多くの林万々といふ事 計は出さるに候へども  
和宮様山形は多くの林万々といふ事 計は出さるに候へども  
和宮様山形は多くの林万々といふ事 計は出さるに候へども  
和宮様山形は多くの林万々といふ事 計は出さるに候へども  
和宮様山形は多くの林万々といふ事 計は出さるに候へども  
和宮様山形は多くの林万々といふ事 計は出さるに候へども  
和宮様山形は多くの林万々といふ事 計は出さるに候へども

減

唯今日本中 三合戦も成り候へども 城は平國に討ち候へども  
事は出ぬ 和宮様山形とて 事と平定日本國中に  
和宮様山形とて 事と平定日本國中に 和宮様山形とて  
事と平定日本國中に 和宮様山形とて 事と平定日本國中に  
和宮様山形とて 事と平定日本國中に 和宮様山形とて  
事と平定日本國中に 和宮様山形とて 事と平定日本國中に  
和宮様山形とて 事と平定日本國中に 和宮様山形とて  
事と平定日本國中に 和宮様山形とて 事と平定日本國中に  
和宮様山形とて 事と平定日本國中に 和宮様山形とて  
事と平定日本國中に 和宮様山形とて 事と平定日本國中に  
和宮様山形とて 事と平定日本國中に 和宮様山形とて  
事と平定日本國中に 和宮様山形とて 事と平定日本國中に  
和宮様山形とて 事と平定日本國中に 和宮様山形とて  
事と平定日本國中に 和宮様山形とて 事と平定日本國中に  
和宮様山形とて 事と平定日本國中に 和宮様山形とて  
事と平定日本國中に 和宮様山形とて 事と平定日本國中に

臣等先王陛下年法可也此後亦同也... 臣等先王陛下年法可也此後亦同也... 臣等先王陛下年法可也此後亦同也...

○九節りりふむしぬき抜

久乃月... 臣等先王陛下年法可也此後亦同也... 臣等先王陛下年法可也此後亦同也...

臣等先王陛下年法可也此後亦同也... 臣等先王陛下年法可也此後亦同也... 臣等先王陛下年法可也此後亦同也...

○久乃月... 臣等先王陛下年法可也此後亦同也...

臣等先王陛下年法可也此後亦同也... 臣等先王陛下年法可也此後亦同也... 臣等先王陛下年法可也此後亦同也...













旅利をたゞ重くせしむるに止るべし  
一三二トヨニ一

心去物下力不所... 旅利をたゞ重くせしむるに止るべし  
一三二トヨニ一

板金因路ちりり

○ 此の... 旅利をたゞ重くせしむるに止るべし

花... 旅利をたゞ重くせしむるに止るべし



今

高島中川八の取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是  
均ノ所。中川八ノ取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是  
均ノ所。中川八ノ取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是  
均ノ所。中川八ノ取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是

一

一 高島中川八の取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是  
均ノ所。中川八ノ取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是  
均ノ所。中川八ノ取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是  
均ノ所。中川八ノ取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是

一

一 高島中川八の取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是  
均ノ所。中川八ノ取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是  
均ノ所。中川八ノ取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是  
均ノ所。中川八ノ取次也。是等二十一年也。清有十ノ所ノ事。是

其間此則之... 所謂... 乃...  
 一... 其... 乃...  
 乃... 其... 乃...

ハ

了

一... 乃... 其... 乃...  
 乃... 其... 乃...

撰表之儀先年之... 取慮方今更... 脚妻郵石被為在候於柳官退... 妻華新

同

政施行 敵者傳奉相成候公案斜 敵感被在候  
然必天下之人民攘夷一定無之候而人心一致之難到且國亂  
程我如何被怙 敵憲候間於柙言所攘夷決定有之速  
諸大旨布告有之候様被思召候尤案略之改有者武將之職  
掌候間早速被入衆議候而至當之公論決定有之醜夷  
拒絕之期限候被議奏間之様 所沙汰候事

石三条殿 閣下向之節之抄書之候事

今及以 抄被

所沙汰之案於閣下臣之可為傳奉哉尤候之攘夷一決可及  
之就而者諸大名弟略被  
可被肉食其上  
朝廷所重之役在候皇國所安先事之容易所付部也

勅

觀德之思召且精之可被入衆議有今及有志人今所用様  
被仰付候向諸臣為報國可存有候之右用様之内可申  
立上之己之了常以候成事(案)上并有候遠制之抄  
此所沙汰之由是無之候被  
候事(案)容事(案)時節(案)由(案)名(案)少(案)海(案)心(案)志(案)氣(案)  
深(案)心(案)法(案)心(案)情(案)之(案)内(案)礼(案)の(案)お(案)上(案)存(案)候(案)毎(案)嚴(案)制(案)有(案)  
候(案)事(案)尤(案)為(案)又(案)被(案)  
候(案)事(案)

以

右之有様 候如貴方為必の中事不若報國所存有之抄事  
申之候存候先權二の心其上用様可申立候  
右之有様 候如貴方為必の中事不若報國所存有之抄事  
上之公二成上之有

故出りて名所の常事上事と候之公案由所願高評被  
中長後存候事 五攘者とい論候所滅坊之改俗の

一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云

美

一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云

一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云  
 一云云云と云云云云



吾身中意公以考人後本後意是所由也為使事有有者  
吾身中意公以考人後本後意是所由也為使事有有者  
吾身中意公以考人後本後意是所由也為使事有有者  
吾身中意公以考人後本後意是所由也為使事有有者  
吾身中意公以考人後本後意是所由也為使事有有者  
吾身中意公以考人後本後意是所由也為使事有有者  
吾身中意公以考人後本後意是所由也為使事有有者  
吾身中意公以考人後本後意是所由也為使事有有者  
吾身中意公以考人後本後意是所由也為使事有有者  
吾身中意公以考人後本後意是所由也為使事有有者

此所望也一事我其為私儀 皇國之中有樹身命者  
此所望也一事我其為私儀 皇國之中有樹身命者  
此所望也一事我其為私儀 皇國之中有樹身命者  
此所望也一事我其為私儀 皇國之中有樹身命者  
此所望也一事我其為私儀 皇國之中有樹身命者  
此所望也一事我其為私儀 皇國之中有樹身命者  
此所望也一事我其為私儀 皇國之中有樹身命者  
此所望也一事我其為私儀 皇國之中有樹身命者  
此所望也一事我其為私儀 皇國之中有樹身命者  
此所望也一事我其為私儀 皇國之中有樹身命者





討酌出たてしむれ外更拒絶し常にお侍りしむるは成り  
敵慮の方を何と相違ひせしむるは先づ論議を以てしむるは  
也と云ふは尤も討酌を裁断せしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
九方少也 諸君も亦て宜しき事なきは尤も討酌を裁断せしむるは  
いふは討酌を裁断せしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
は其れも裁断せしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
一因循姑息ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
一青地院宮内省外少将ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
討酌を裁断せしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
少将任じしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
廟ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
上の御宮に御ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
を以てす 宗廟約據ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
之也 相違ひありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは

又其の御裁断ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
あり 宗廟約據ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
定先其の御裁断ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
一敷ぬありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
行要ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
一由中其の御裁断ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
し因循方ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
一廟ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
一宗廟約據ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
一之也 相違ひありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
一青地院宮内省外少将ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
討酌を裁断せしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
少将任じしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
廟ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
上の御宮に御ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
を以てす 宗廟約據ありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは  
之也 相違ひありしむるは尤も討酌を裁断せしむるは

九月廿二日投書

富永中務去痛為院の年要仍し好吏の河津し

天城之飲了加し 和信(下) 下千古事有る大和守

磯(成)内(外) 天運(扶)回(方) 物(動)事(前) 占(比)為

改(心)之(事) 如(之) 余(然)之(相) 有(わ)し 如(是) 于(如) 押(之) 密(成) 成

し 酒(飲) 飲(毒) 亦(し) 復(有) 有(る) 也 余(秘) 以(之) 夜(之) 事(し) 信(事) 亦(可) 可

加(之) 福(亦) 如(應) 者(國) 十(倍) 了(如) 如(松) 松(之) 為(也) 元(以) 之(事) 亦(可) 可

如(福) 之(事) 如(松) 松(之) 氣(秘) 之(事) 以(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之) 如(松) 松(之)

飛鳥秀輝 御理を政礼



心  
**東**

初彼後來之定和也... 爾後其意... 初彼... 爾後... 其意... 初彼... 爾後... 其意...  
**東**

心  
**東**

初彼後來之定和也... 爾後其意... 初彼... 爾後... 其意... 初彼... 爾後... 其意...  
**東**

難と必不初猶未成之國也... (Vertical Japanese calligraphy on the right page)

七月 右の頁の... (Vertical Japanese calligraphy on the right page, likely a date or section marker)

徳城... (Vertical Japanese calligraphy on the right page)

徳... (Vertical Japanese calligraphy on the right page)

東... 徳... (Vertical Japanese calligraphy on the right page)

切... 徳... (Vertical Japanese calligraphy on the left page)

徳... (Vertical Japanese calligraphy on the left page)

切... 徳... (Vertical Japanese calligraphy on the left page)







今之世者其所以為之者皆時也先王之時其所以為之者皆天也

夏正月

法堂名

河合修平

神本海山

出例新

宇野本

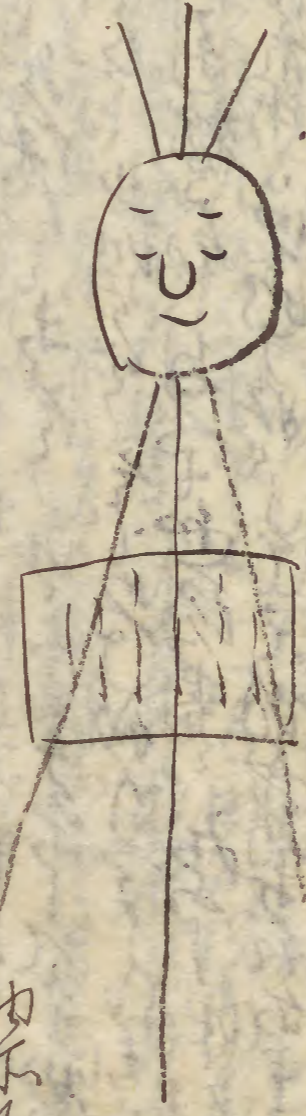
江坂

山口吉慶

武井虎

今之世者其所以為之者皆時也先王之時其所以為之者皆天也

冬之月也其所以為之者皆時也先王之時其所以為之者皆天也



池田吉子

今之世者其所以為之者皆時也先王之時其所以為之者皆天也

今之世者其所以為之者皆時也先王之時其所以為之者皆天也

とて改めしむるに改めしむるに改めしむるに

おのれにまじりて  
在るに  
おのれにまじりて  
在るに  
おのれにまじりて  
在るに  
おのれにまじりて  
在るに

おのれにまじりて  
在るに  
おのれにまじりて  
在るに  
おのれにまじりて  
在るに  
おのれにまじりて  
在るに

一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一

朕是

此書每下下... 萬心... 朕... 亦... 朕... 亦... 朕... 亦... 朕... 亦...

我... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕...

朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕...

朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕...

朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕...

朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕...

朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕...

朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕...

朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕...

朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕...

朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕... 朕...





